

令和2年度

学生によるオレンジリボン運動

和光大学 実施報告書



実施主体 和光大学かんのゼミ

実施内容 Twitter 等による啓発、高校での POP 展示

6月に児童福祉に関連するキーワードをもとに先行研究を調べ、用語説明の発表会を行った。また、7月には児童福祉施設の求人・紹介サイトを運営するNPO法人チャイボラの団体職員にWebで講義をしていただき、社会的養護の理解や現場の実態について学んだ。9月後半からオレンジリボン運動のためのミーティングを毎週行い、企画の立案、動画撮影、虐待に関連した書籍の選定とPOP制作、SNSサイトの試行、高校へのPOP展示依頼等を行い、11月のイベント実施に向けて準備を進めてきた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- 1) SNS (Twitter、Instagram) を用いた“1分動画”の配信：11月中の毎週日曜に“1分動画”を公開した。動画の内容は、以下の通りであった。
ゼミの紹介、通告ダイヤル189のPR、NPO法人チャイボラの紹介、オレンジリボンを1分間で何個つくれるか?、「解けるかな?一問一答」(虐待に関するQ&A)、POPの紹介
- 2) 虐待関連書籍のPOP制作と展示：大学近くの高校とゼミと親睦を深めている高校の2校に制作したPOPを展示させてもらった。展示物には、ゼミのSNSサイトのQRコードを示し、高校生がスマホでアクセスしやすいように工夫した。

③オレンジリボン運動を終えて…

虐待というテーマを取り扱うにあたり、デリケートな問題であるがゆえに、学生としてどのように向き合っていくのか、各々が悩みながら、手探りで行っていく活動となった。実際に1分動画の作成やPOP制作をしていくなかで、テレビなどで報道される情報だけでは得られない、虐待の様々な側面を知るきっかけとなり、自らの虐待に関する知識を深めることができた。

しかし、知人に189を知っているかと尋ねると、知っている人は少なく、一般には児童虐待問題や189の認知が広がっていないことを、活動を通して実感した。

一方で、菅野ゼミのSNSアカウント



↑かんのゼミ集合写真

トを見た知人が反応・拡散に協力してくれたほか、実際に知人に会った際に「ゼミでこんなことをやっているんだね」と話してくれ、189や虐待について話をするきっかけなり、SNSで拡散をするということの可能性を感じた。コロナ禍でなければ、SNSにこれほどの力を入れて取り組んでいるとは限らなかったのでは、行動が制限されている現代ならではの取り組みの成果をあげることができた。

POPや場所を借りて行う展示は、期間が終われば展示を終了しなければならない。しかし、SNSアカウントは、意図的な削除をしない限り残り続ける。児童虐待防止月間が終了しても、数か月後に再度拡散をすれば、改めて189の認知拡大に取り組むことも可能であり、共有も簡単にできる。SNSというツールを使用することで、これまでになかった新たな認知拡大が可能になり、今後どのような活動方法になったとしても、SNSを使用した拡散方法は十分に活かすことが可能だと考えられる。



↑ POP 制作風景



かんのゼミ @kannozemi_wako · 12月10日

🗨️ 活動報告 🗨️

菅野ゼミ生が作った虐待に関する本の紹介POPを予定させていただいた町田市内の高校に掲示させていただきました！

これからも菅野ゼミをよろしくお願いします！🍊

#学生によるオレンジリボン運動

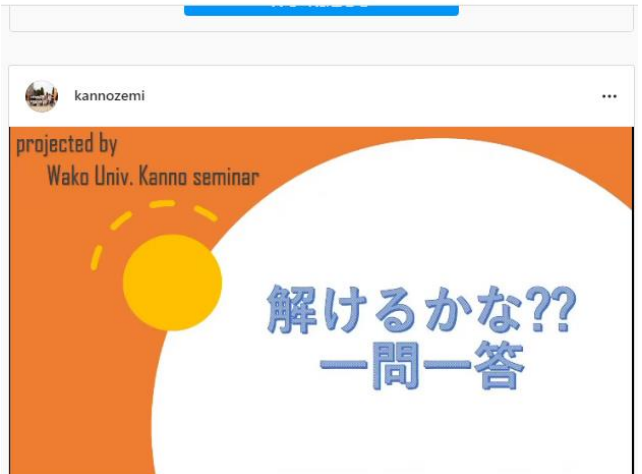
#オレンジリボン運動



↑ 高校での展示を Twitter で報告

Instagram

検索



↑ SNS で発信した“1 分動画”